



聖徳大学収蔵名品展

奈良絵本

絵巻

『竹取物語絵巻』下巻 江戸時代

十五夜の空は満月の十倍も明るくなり、天人が雲に乗り、姫を迎えに来る。

ごあいさつ

奈良絵本・絵巻とは、室町時代後期から江戸時代にかけて制作された手作りの美しい絵本や絵巻のことで、御伽草子や物語、随筆など様々なテーマで描かれています。挿絵には、朱、緑、青など鮮やかな色彩と、胡粉、金銀箔などがほどこされ、絢爛華麗な世界を再現しています。内容を述べる詞書(ことばがき)(文章)と、それに対応する挿絵が交互に配列され、まさに現代の絵本の原点ともいえる書物です。

本展覧会では、聖徳大学が収蔵している奈良絵本・絵巻コレクションの中から『浦島太郎』、『伊勢物語』、『竹取物語』など、私達にも馴染みの深い題材の作品を展示公開します。

わが国独自の伝統的な画法である大和絵の画風で描かれた華やかな挿絵と、連綿体によって書かれた流麗で優美な詞書が交差する奈良絵本・絵巻は、早くから海外でも注目され、高い評価を受けてきました。

数百年の歳月を経て、なお今に伝わる奈良絵本・絵巻の美しさを、ぜひ御鑑賞ください。

平成30年4月1日

学法人東京聖徳学園理事長
聖徳大学学長
聖徳大学短期大学部学長
学園長 川並 弘純



「酒呑童子絵巻」中巻 江戸時代前期



「酒呑童子絵巻」下巻 江戸時代前期



「鶴の草紙絵巻」 江戸時代後期



「浦島太郎絵巻」 江戸時代後期



「敦盛絵巻」上巻 江戸時代前期



「敦盛絵巻」下巻 江戸時代前期



「伊勢物語絵巻」上巻 江戸時代前期



「不老不死絵巻」上巻 江戸時代前期



「長恨歌絵巻」中巻 江戸時代前期



「七夕絵巻」上巻 江戸時代前期



「七夕絵巻」下巻 江戸時代前期



「竹取物語絵巻」下巻 江戸時代



「つれづれ草」(冊子体)一帖 江戸時代元禄頃



「大和物語」(冊子体)上巻 江戸時代中期

奈良絵本・絵巻

奈良絵本・絵巻とは、室町時代後期から江戸時代にかけて作られた彩色絵入りの絵本(冊子体)や絵巻のことで、印刷本と違い、一点一点が手作業で作られています。

描かれている絵は、胡粉、緑青、金銀箔などがほどこされた金銀、朱、緑などの極彩色であり、主に上層階級向けとして贅沢に作られたものと思われます。

内容は、『浦島太郎』、『七夕』、『酒吞童子』などの御伽草子(おとぎぞうし)が中心ですが、平安時代の王朝物語や中世の軍記物、室町～江戸初期にかけて流行した幸若舞曲などの作品もみられ、日本の当時の主な文学作品をほぼ網羅しています。

奈良絵本という名称は、明治時代以降に付けられたものですが、“奈良”という言葉が使われているため、奈良で作られた、あるいは奈良時代に作られたとの誤解が生まれましたが、現存する奈良絵本制作地と奈良の地名に直接的な関係は無く、多くは京都を中心に制作されたと考えられています。

奈良絵本・絵巻は、江戸時代後期に江戸を中心に制作された浮世絵(錦絵)と対比すべきもので、いわば日本の重要な文化財と言えましよう。

参考文献:『入門 奈良絵本・絵巻』

著者:石川 透(慶応大学文学部教授)

出版社:思文閣出版



平成30年4月1日(日)～7月28日(土)

9月3日(月)～11月30日(金)

午前9時～午後5時

(休館 毎日曜・祝日と学事日程による休業日)

聖徳大学1号館8階 聖徳博物館

JR常磐線・JR乗り入れ地下鉄千代田線・新京成線とも
松戸駅下車、東口より徒歩5分 (学内に駐車場はありません)

